

処理を開始した。また、対照として無処理を設置した（図3、‘さちのか’のみ表示）。

2) 処理サイクルの検討

定植日は、‘さちのか’を9月16日、‘まりひめ’を9月13日とした。処理区は、冷蔵処理と自然条件を同日数ずつ2～4日、処理回数2～5回を組み合わせさせた（図3、‘さちのか’のみ表示）。

4. 結果

1) 処理開始時期の検討

(1) ‘さちのか’

開花は、8月25日区、8月22日区、8月31日区、8月28日区、無処理区の順に早まったが、8月28日区と8月31日区が8月25日区と8月22日区よりも斉一であった（図4）。

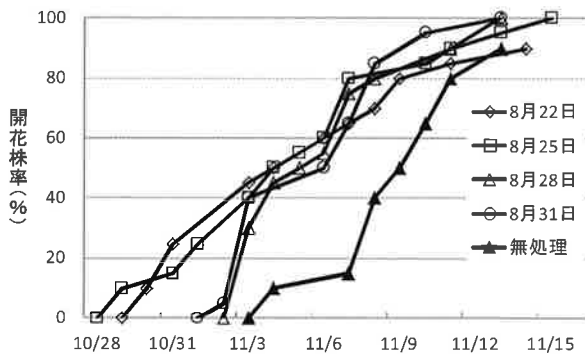


図4 間欠冷蔵処理開始時期と開花株率の推移 (さちのか)

(2) ‘まりひめ’

開花は、8月19日区、8月22日区、8月25日区、8月28日区、無処理区の順に早まったが、8月22日区と8月25日区が8月19日区と8月28日区よりも斉一であった（データ省略）。

2) 処理サイクルの検討

(1) ‘さちのか’

2日-2日の処理では4回区が5回区より開花が斉一であり、3日-3日の処理では3回区が、2回区および4回区より開花が斉一であった。4日-4日×2回区の開花は3日-3日×3回区と同様に推移した。（図5）。

(2) ‘まりひめ’

2日-2日の処理では4回区が5回区よりも開花が斉一であり、3日-3日の処理では3回区、2回区が4回区より斉一であった。4日-4日×2回区では開花が最も早かったが開花揃いは3日-3日×3回区よりも劣った（データ省略）。

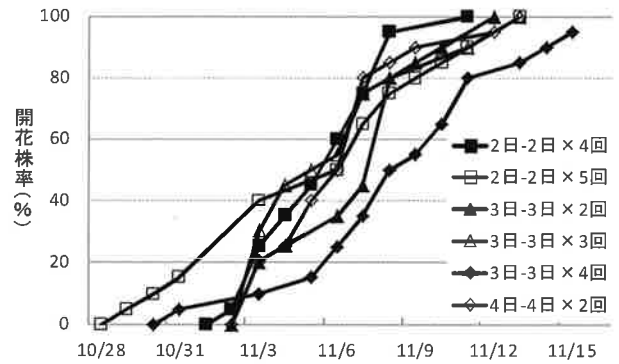


図5 間欠冷蔵処理サイクルと開花株率の推移 (さちのか)

5. まとめ

今回の結果から、‘さちのか’では3日-3日×3回処理の場合、8月末から処理を開始し、9月16日以降の定植で開花のバラツキが小さく処理効果が高くなった。処理サイクルは、9月16日定植の場合、2日-2日×4回、3日-3日×3回、4日-4日×2回の処理サイクルで効果が高まった。‘まりひめ’では処理開始時期は8月下旬で、9月13日以降の定植が適し、処理サイクルは2日-2日×4回、3日-3日×2回および3回処理で効果が高まった。

6. おわりに

本技術は新たな設備投資が小さく、農家が容易に取り組める技術として今後の普及が期待される。しかし、これまでの研究から、他品種では処理前の窒素切りや、十分な育苗日数を確保して苗の充実を図ることが必要とされている。

このため農業試験場では、‘さちのか’、‘まりひめ’の処理実施に必要な苗質について検討を行い、より安定した技術として確立していきたいと考えている。

(栽培部 東 卓弥)